

Harvard Graded Direct Method Teachers' Group

News Bulletin

第 17 号 英語教授法通信 1966年6月1日

編集・発行・英語教授法研究会 事務局 東京都世田谷区世田谷 2-1184 吉沢美穂方 Tel. (429) 5929

即席学習心理学

比 嘉 正 範

「何が彼女（彼，彼等，貴方，私）をそうさせるか」というのが学習心理学に与えられた根本的な問題である。これをもっと学問的に言いかえると「何が人間を含む有機体に行動をおこさせるか。そしてその行動が将来くりかえされる可能性を増減する機構，つまり心理過程は何であるか」ということになる。この問題を追求するのに学習心理学者は，大ざっぱに言って，二派に分かれている。

学習心理学者が少なくとも二派に分かれているということは，先ず第一に「学習」という言葉そのものの定義が確立していないことを意味する。日本語でも，一般人にとって「学習」といえば学校で勉強することか本を読むことなどを意味し，あらゆる行動の習得を意味しない。「習得」という言葉も「学習」と同じように普通使われているが，学習心理学的には両語とも「どんな行動，行為でもいいから，その行動が最初で出されて，から再びくりかえされる可能性を大きくしたり小さくしたりする」ことを意味するのである。しかし，これはあくまでも大ざっぱな「学習」の意味であって定義ではない。これから研究が進むにつれて自ずから客観的な定義が生ま

れてくるものと思われるので，ここで各派の定義を述べることは止めることにする。

その次に二派の存在の意味するものは有機体について異った前提があり，そのため研究方法に大きな差があるということである。研究者が直接観察することが出来て，そして操作することが出来る行動現象と物理的環境だけを研究の対象とすべし，というのが行動主義派である。動機や感情，或いは欲望というようなものはあくまでも抽象的な概念で実存しないものと見なし，これらのものを行動主義的に説明し，変数として認めないというのである。内的なものを対象にしないで，直接に観察出来る行動と操作出来る物理的環境との相関関係を研究すればよいために，行動主義派の実験研究は明快で，客観的な結果が得られ，実験科学としての強みを持っている。この行動主義派を近代において理論的に，又実験の裏づけと共に確立として打立てたのがスキナー (B. F. Skinner) である。スキナー以前にはパブロフ，ワトソン，それからソーンダイクがいた。

スキナーの学習理論は彼の The Behavior of Organism (D. Appleton-Century) に大

変分かりやすく書かれている。彼の論を簡単にまとめると、或る行動が将来どの位の確率をもってくりかえされるかはいつに強化(reinforcement) 或いは報酬(reward)にかかっている、ということである。この故に、スキナーの学習心理学は reinforcement psychology とも言われている。或る行動が環境に何らかの変化をもたらす、その結果その行動を発した有機体にどんな報酬がどんな工合に与えられたかによってその有機体と同じ行動をくりかえす確率が決まるというのである。例を作ってみよう。或る子供が偶然「ああ」と大声を出したとする。その結果何の変化もおこらなければ、その子供が再びそのような大声を出す確率は減りこそすれ増えはしないのである。しかし、「ああ」と叫び終わったとたんに誰かがその子供の好きなチョコレートを与えると、「ああ」という言語行動がくりかえされる可能性が一段と大きくなるのである。その度にチョコレートをやることによってその行動のくりかえされる確率がどんどん増えていくわけである。確率を減らそうと思えばチョコレートを与えないようにすればよい。この場合、チョコレートが報酬として強化の作用を持つものであり、それを操作することによって行動そのものを制御(control) することができる、つまり学習を計画的に制御することができるというわけである。

スキナー派の学習心理学者にとって大きな問題は 1) 何が報酬になりうるか、つまり具体的にしろ抽象的なものにしろ何が強化の作用を持つか、2) 報酬の質と量と強化作用の相関関係はどのようなものか、3) 時間的に言って報酬をどのような間隔で、そしてどの位の頻度で与えればよいか、である。これまで長年にわたる実験の結果、これらの点について有意義な強化の法則のようなものが発見さ

れ、現在実際の学校教育に応用されつつある。スキナーのティーチング・マシンとプログラムされた教材などはすぐれた応用の例である。

外国語学習の場合、模倣や説明などを通して何とかして学習者に一先ず正しい発音をさせ、又は正しい文を作らせ、そしてその発音或いは作文が正しいと認めた時すぐに「よろしい」とか「Good!」といった言語的報酬を与えて強化の作用を操作するのが教師の役目である。ここで一番大切なことは学習者自身が発音し文を作ることであり、教師が正しい発音や作文を認識できる力を持っていて、そしてすぐ学習者の言ったことが正しいか正しくないかをその学習者に報酬を与えるか与えないかによって知らせることである。スキナーの学習理論の見地から日本の英語教育を批判すると、一学級における学習者の数が多いため一人一人の学習者が発音と作文の機会が十分に与えられていないこと、教師が往々にして正しい発音と作文を認識する力がなく強化作用を操作出来ないこと、であろう。

これまでの動物実験の結果では報酬の質や量はさして問題でなく、むしろ報酬を与える間隔と頻度が重要だということが分かっている。報酬を与えるのは行動が出されて後早ければ早い方がいいが、常時与えずに不規則に与えた方が学習の永続性を保つということになっている。

行動主義派に対して有機体の内面的なものを強調し学習を抽象的なレベルで考えるのがもう一つの派である。この派はゲシュタルト心理学に根をおき、認知作用を重要視するのでゲシュタルト認知派又は認知主義派と呼ばれている。この派の指導的な地位にあるのがブルナー(J. S. Bruner)である。彼の実験と見解は A Study of Thinking(Wiley) と The Process of Education及びOn Knowing

(いずれも Harvard Press)に報告されている。この派の心理学は普通 cognitive psychology と呼ばれている。面白いことには、スキナー、ブルナー両人ともハーバード大学の教授である。

認知主義派の説によれば、人間は抽象的な概念を構成し、物事の規則性や因果関係を経験を通して認知する能力を持っており、学習とはこの認知作用のことをいう、ということである。つまり、人間が或る行動をくりかえすのは与えられた報酬の直接の結果というよりもむしろ人間が或る規則性、因果関係を発見したからだ、というわけである。だから、認知主義派にとって次の問題点が研究の課題になっている。先ず、^{*}高い、^{*}寒い、^{*}南、^{*}いとこ、といったような概念が構成される心理過程はいかなるものか。次に、規則性や因果関係はどのような心理過程を経て発見されるのか。

学習者の概念構成と規則性の発見の行為を助長するのが教育であり、教育者は^{*}発見の行為(act of discovery)、を効果的に助長するために教材の編集・組立てをし、それを提供する役割を演じなければならない、と認知主義派は言っている。この見地からいうと、色々と詳しく文法を説明する語学の教師は自分の発見した規則性或いは法則を学習者に覚えさせているだけで、学習者自身の発見の行為を助けていることにはならない。「主語が三人称・単数で動詞の時が現在である場合、その動詞にs又はesをつける」というような文法を既成文句として学習者に復誦させたり説明したりするより、むしろ、数多くの例文を提示して学習者自身にそのような文法或いは規則性を発見させそして表現させるのが最も効果的な教育ということになる。他人の発見した規則性を学ぶことは往々にして棒暗記ということになり忘却も早い、自分で発

見し表現した規則性は永く記憶に残り、一応用される可能性が非常に大きいことはもう既に事実である。外国語教育における直接教授法(direct method)の持つ強みは実にこの点にある。教師が百回既成文句をくりかえして説明するよりも、よく準備された教材中の多くの例文を見て、学習者が「ああ、そうか」とか「ははーん」と一度言う時の方が学習の効果が高いことになっている。

現在ブルナー達が研究しているのは、一口に言えば、いかにして説明なしに学習者をして「ははーん」と言わしめるか、ということである。そのためには規則性が発見出来やすいように教材を作らなければならない。学習者は規則性を発見しても必ずしも表現できるわけではないので、何とかして発見された規則性がほんとに正しいものであるかどうかを確かめてみなければいけない。つまり間違った「ははーん」を見つけたし、最初から発見の行為をくりかえさせるわけである。こういった教授上の実際問題が解決できれば、より科学的な、そして効果的な帰納法的教育が可能になるものと認知主義派は期待している。

原稿用紙十枚では即席心理学さえ難しい。学習心理の^{*}法則、を読者自身に発見してもらうためには例が多くさせるスペースが必要だ。しかし、簡単にしか説明出来なかったとはいえ、外国語教授における direct method が行動主義と認知主義の両派のいずれの見地から見ても学習心理学的に健全であることがわかれると思う。問題なのは教材の編集、つまり grading なのであるが、これは又この次の機会に再び即席的に論じることになろう。

(関西学院大学助教授)

From Basic to Wider English (1)

片 桐 ユズル

Basic 成立のひとつのカギは動詞を16にへらしたことで、このため文型の点においても、これらの動詞と関係ない文型はしぜんに閉めだされ、たいへん整理された。

He is putting his hat on the table. のような文章を、リチャーズは、“primitive lucidity”をもつといって、いちばん基本型とかんがえた。EPのはじめのころ出てくる take, put, give は、主語+動詞+目的語+方向、というかたちである。Go, come は、基本型から目的語の欠けたものという感じであり、He sees her, などは、方向がゼロになっているとおもえばいい。

EPを文型からみていくと、前の半は基本型だけでおしている。そしてmakeで、make the water warm, make him go というのをやり、ついでkeep the water warm, let him go というかたちが、だいたい本のまんなかへんである。そして旅行と学校と手紙のあたりでThe teacher is teaching him the word learning. (p. 138) となり、ここではじめて、いわゆるS-V-O-Oの文が出る。

Basicの16の動作語のうちで、S-V-O-Oのかたちをとるものはgiveとsendのふたつしかない。このため、tell him the storyとはいっても、tell the story to himとはいわないとか、ask him a questionはask a question of himで、to himではないとか、いろいろの、ややこしいタブーにふれずにすんだ。

しかし英語の達者なひとにしてみれば、give a book to himよりは、give him a bookの方が、みじかくて、圧縮されていてつかいやすい、というかもしれない。そこは生徒が、p. 138ぐらいまできたときは、S-V-O-Oにふれさせてもいいころかもしれない、さいわいEPのこのへんには、

Mrs. Smith is reading the newspaper.
Now Mrs. Smith is writing a letter to Mr. Smith.

She will send the letter to Mr. Smith.

などがあるので、ついでにgiveもいれて、

They are giving Tom and Mary good education.

She is reading them the letter from Mr. Smith.

Mrs. Smith is writing Mr. Smith a letter.

She will send him the letter.

などというのを、この機会に練習しておく。

動詞というものは、ひきのばせばたいへんながくなるものを、チョーチンのようにおしちじめて、ちいさくたたみこんだものだ、と室勝さんはいったことがあるが、この文型においてgive me moneyは、give money to meをぎゅっとおしたら、toがへこんでしまったようなところがある。(しかし、おしえるときに、これら2つの文型を、それぞれの言い換え、かきかえとしておしえていいかどうかは、説明の論理と学習の心理は、またべつだから、いま、なんともいえない。)

Basic以外のことばではtell them your nameとか、ask him a questionだとかをやっておくと、これはto不定詞の導入にあとでべんりである。

○G. D. M. 関西支部が発足

東京を離れて、相変わらずエネルギーな活躍を続けている片桐ユズルさんが、大阪、土佐堀の Y. M. C. A. で、小学校五・六年生を対称に、実験クラスを作った。五月二十五日に第一回の研究会を持ち授業実演のあと Discussion、盛会だった。近くの方は手伝って下さい。

○G. D. M. 鎌倉支部の活動

40年から始まった鎌倉支部の活動は、浜田さん、東山さん、小林さんを中心に相変わらず活発に活動している。連絡先は鎌倉市小町336 婦人子供会館内 G. D. M. 研究会鎌倉グループ

○Summer Seminar 西へ移動

例年東京で開かれた Summer Seminar は、片桐台風とともに西へ移動。今年は大阪松蔭女子学院大学で7月25日から30日まで開かれる。講師は吉沢さん、片桐さんの他に比嘉正範さん、三上章さん、Reta Ross さん。新しい member が多数ふえることが期待される。

○最近例会を欠席された人のために

日大二高でやっています。四月は、吉沢さんの教授法の話のあと、みんなで idea を出しあった。五月は小野木さんが Osgood の Psycholinguistics の話をしてくれた。例会でどんなことをしてほしいかみんなでどんどん注文を出して更に充実した会にしませんか。注文は事務局でもいいし、会員で話し合ったださってもけっこう。注文をお待ちします。

○東星学園小学部で G. D. M.

公立中学校では、検定された教科書を使われる関係上、E. P. を全面的に取り入れられないのが G. D. M. 会員の悩みであるが、その点小学校は羨しい。東星学園では、小学部の英語の授業に全面的に G. D. M. を採用。

先日吉沢さんが五年生の研究授業をした。今後の成果が楽しみである。

○「外国語学習と Transfer」

片桐ユズルさんが松蔭短期大学研究紀要に書いたもの。G. D. M. はプラスの transfer がおこりやすいこと、英語教育から日本語訳を追い出す必要のあることなどがよくわかる。読んでみたい人は抜刷があります。

○忘れてやしませんか？

G. D. M. 会費は年間600円です。未納の人出したかどうかわからなくなった人は事務局へ連絡を。月例会会場でも受けつけています。

○人事・じんじ

成相克江さんは結婚して小堀克江さんに。新住所は新宿区百人町4 西戸山住宅 R D 34号 Tel. 368-3830

福田瑞江さんは結婚して黒田瑞江さんに。新住所は平塚市寺田縄979

三戸幸枝さんは結婚して岡部幸枝さんに。新住所は大阪府堺市浜寺諏訪森町西4-330 三井建設浜寺社宅502号

なお、岡部さんは大阪で公立中学校に就職の予定で、関西支部での活躍が期待されます。

黒崎恵津さん 今春結婚 姓は？？

小木野一さんは独協大学へ講師として迎えられた。なお住所も埼玉県草加市旭町大字堺707 あけぼの荘13号に移転された。

関根栄さんは八王寺市立二中より府中三中へ転任

佐々木瑞夫さんは福島県双葉郡浪江中より富岡二中へ転任

小林祐子さんは I. C. U. より東京女子短期大学へ転任

小野寺あや子さんの電話は(368) 6012 になりました。

藤本一臣さんの電話は(920) 7470 です。

<i>English Through Pictures, Books 1 and 2</i>	¥ 220 each
<i>First Workbook of English</i> (大判)	¥ 240
(ポケット判)	¥ 170
<i>First Steps in Reading English</i>	¥ 170
<i>Teachers' Handbook for English Through Pictures</i>	¥ 400
<i>Anglophone Records for English Through Pictures, Series 1 and 2</i>	¥ 6,000 each
<i>Filmstrips for English Through Pictures, Series 1 and 2</i>	¥ 15,320 each

チャールズ・E・タトル商会

神田店 東京都千代田区神保町1-3
TEL. (291) 7072
高島屋店 東京都中央区日本橋高島屋
6階 TEL. (211) 5029

新刊

絵を使った文型練習

国際キリスト教大学講師 吉沢美穂著

英語入門期に視聴覚的な教授法が役立つことは論をまたないが、その効果的な用法は十分に研究されているとは言えない。本書の著者はハーバード大学のI・A・リチャーズ博士のもとで言語伝達の理論に基づいた英語教授法を学び、爾来十余年にわたる研究と実践を一冊にまとめた。ここに扱われた文法事項、語法、基本語は三百に及び、教科書の種類、学年に関係なく、ページを開けば絵を使った文型練習が得られる。練習の効果を高めるために初・中・上級別のワークブックを添えた。

中学校、高校、講習会、家庭での学習に最適

A5判函入(テキスト一冊
ワークブック三冊添付)
好評発売中 定価六五〇円

東京都千代田区神田錦町3-26 大修館書店 Tel(291)3961-5